



新規加入された組合員さん…14名(2023年1月20日現在)

現在の組合員総数…8,999名(前年対比102.2%)

グリーンコープでんき 契約件数…99件(前月+1件)

グリーン電力出資金 申込人数…231名(2022年5月末現在)

申込件数…243件(2022年5月末現在)

発行：グリーンコープ生活協同組合理事会 出雲市斐川町荘原 2230-1 TEL:0853-73-8010 FAX:0853-73-8013

オンラインで

脱原発学習会

開催しました

「激動する原発・エネルギー問題をどうみるか」

2023年1月11日（水）

1月11日（水）、脱原発学習会「激動する原発・エネルギー問題をどうみるか」を、講師に龍谷大学教授で原子力市民委員会座長の大島堅一さんを迎え、オンライン（ZOOM）で開催しました。15名の参加がありました。

東日本大震災以降、これまでの原発推進路線から脱原発へ、それが再びベースロード電源と呼ばれ、さらに政府が非公開のGX実行会議を経て突然推進へ舵を切りました。今回の学習会では、政府の原発推進の理由を一つ一つ検証し、根拠やメリットに乏しいことを学びました。

電気代の高騰や電力ひっ迫問題が、原発を稼働させれば解消するような風潮は情報の伝え方の結果です。データを見ればこれらはウクライナ問題とも、資源の国際価格高騰とも、実は影響が少ないことがわかりました。

島根県の原発事故の避難先ですが、海岸や公園だったり、避難人口がとてもしらぬ施設だったり、万全とはいえない避難計画でした。島根原発2号機は、建設費3033億円、5000億円が安全対策費だそうです。動かさなくても費用がかかり、動かしたら放射性廃棄物が出る。存在するだけで、テロや有事の際のリスクとなる。わたしたちにできることは、希望を捨てず、学び、できることをやっていく。科学的真実は多数決ではないのだから、という結びの言葉で終わりました。

未来を守る一歩として…

グリーンコープでんき

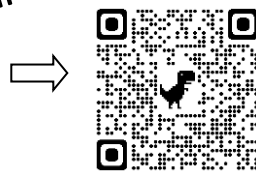
原発フリーの
でんきを
使う！

毎日使う電気だからこそ、原発に頼らずに安心できるものを。
電気の品質や安定性はこれまでと一切変わりません。

自然エネルギーの
でんきを
作る！

- Webで…「グリーンコープでんき」を検索
 - 💡 料金シミュレーション
 - 💡 でんき簡単 Web 申し込み… ができます！
- 資料請求は…フリーダイヤル 0120-932-679

詳しくはこちら！



いろいろな思いや情報を伝えあいませんか？みなさんからのおたよりをお待ちしています。

2023年2月27日 miranと95号

☆商品についてのお問合せはこちらに☆

てるてるコーナー（フリーダイヤル0120-14-0586 月～金9:30～16:30<祝日休>）

開催
しました

雲南地区委員会

秋のつどい『2022年fromネグロスセミナー ～カカオとエコシュリンプで知る民衆交易～』



2022年10月26日(水) 会場：西日登交流センター

2022年10月26日、NPO法人APLAの野川未央さんをお招きして『2022年fromネグロスセミナー～カカオとエコシュリンプで知る民衆交易～in雲南』を開催しました。6名の参加がありました。新型コロナが発生してから約3年、控えていた対面での活動の再開でもあり、待ちに待った“秋のつどい”でした。



民衆交易といえば外せないカカオと、脱炭素への取り組みとしてマングローブ林保全も始まることから「エコシュリンプ」についても詳しくお聞きしたく、テーマを「カカオとエコシュリンプで知る民衆交易」としました。



一般のエビ養殖では密に育てるため、ストレスによる病気対策の薬品と成長促進のエサが必要で、水質に負荷がかかること。それに比べ「エコシュリンプ」は、エサを与えず(自然のプランクトンを食べる)化学合成薬も与えない【自然放牧】のような育て方をしていること。もちろん、収穫後に見栄えのための薬も使いません。写真で見た溜め池の養殖場は、広々とした自然に溶け込んでいてとてもきれいでした。また、エコシュリンプの生産から、環境については養殖場だけの問題でなく周辺地域も関係があるということにエビを育てている人たち(エビ農家というそう!)が気づかれ、エビ農家さんが中心になって地域のゴミ収集活動も始まっているそうです。日本と違い行政サービスとしてゴミを適正に回収処理する仕組みが整っていないため、その仕組み作りをはじめていると聞き、そのまっすぐなパワフルさに驚きました。カカオについても、生産者の発展と自立を保障する中で、現地との交流を重ね、いろいろな想いがつながら美味しい商品として私たちの手もとに届いていることを知ることができました。



そして、活動を支え伝えるために各地を飛び回るAPLAの野川さんの、明るく前向きな報告にも元気をいただきました。



今年もfromネグロスセミナーを通じて、民衆交易とは物を買うだけではなく、携わっている双方の誇りや夢を支え、ともに作り上げているものだと学び、そこに関わっていることが誇らしく思えました。

fromネグロスについて学ぶのが初めての地区委員も多かったので、参加された方へのプレゼント(ネグロスバナナとマスゴバド糖スティックにしました)を決めるときにネグロスの関連商品についてあれこれ話しながら取り組むことができたことも、活動の喜びでした。



参加者の感想(抜粋)



今まで、何となく見ていた民衆交易商品ですが、その商品のストーリーを知ることによって買って「たくさんのお金を支えたい!」と思いました。

一歩ふみだして、知ろう、考えようという行動にうつすことが大切だと感じました。講師の野川さん、若くてエネルギーいっぱいの元気なお話しありがとうございました!!

買いものでも応援したいです。



働いている方たちが誇りや夢をもって、また楽しむ時には楽しんでいる、というのを聞いて、安心というか、嬉しくなりました。「一人の声」を大切にしているのも感じました!

感動、おどろきをたくさんしました。現地の方の言葉「みらいの子孫の土地・資源をかりている」という視点にはっとさせられました。国が離れている人々とのつながりを実感しました。みんな地球を守りたいですね。